

第36回全国郵趣大会 in 島原雑感

橋本たねひろ

平成30年9月8日午前中に展示パネル組み立て等で汗を流した後受付を済ませると、周りに見知った顔が幾人もおられ、非常に心強い限りであり、小雨ではあったものの、快適な空間がここにはあった。

13時30分、福岡支部田畑氏司会のもと福井理事長、伊藤大会実行委員長、森谷島原郵便局長の挨拶、祝辞、金川会員増強協議会副議長のお願いと続いたが、初の長崎県開催であること、ここからも見える普賢岳噴火から27年目であること、潜伏キリシタンの世界遺産などの話題があった。

今年度の郵趣活動賞個人の部では鹿児島支部永吉氏ほか2名が、郵趣文獻賞では2名、登録支部・団体50周年特別表彰で5支部が受賞した。

特別講演は、吉田敬氏の「切手に学ぶ世界の知識～全世界ゼネラル収集」で、複数の国の切手を単片で集めることをゼネラル収集としていること、氏は1917年以前のもの99%を収集済みであること、収集方法などについて解説されたが、招待出品「英領ギアナ4セント赤紫未使用」は世界で1枚の貴重品が使用済みと並べて展示され格別目を引いていた。

分科会は、永吉氏の「戦後記念切手のさまざまな楽しみ方」に吉賀氏とともに参加したが、それぞれ20名前後の受講であった。

切手展示は、吉田氏の特別展示や伊藤氏の昭和切手が印象に残った。

そして18時、オープニングに地元島農和太鼓の演奏後、記念パーティ開宴、ワンリーフ展人気投票結果発表や酔っ払いの特別オークションを開催したが大盛況で、東京、千葉、防府、長崎の人々との切手談義に花が咲き、和やかなひとときであった。

雨中ながら参加者73名以上で最も遠方は岩手、特別オークション売上約44万円、チャリティオークション約4万円、来年は大阪開催、再会を約し閉会となったが、再来年は山口市、6年後はまた九州開催となるので会員諸氏の参加を切に願う。